

SRID キャリア開発塾講師陣プロフィール



氏名：中野恭子

自己紹介：私の開発研究は、米国生活で初めて差別される感覚を味わったことに始まります。夫は人種や国籍ではなく、業績で評価される社会に所属していましたが、扶養家族である私と3人の息子たちはただの非白人でした。公園では仲間に入れてもらえずひっそり親子で遊びました。我が家のある中の下くらいの住宅地とアフリカ系の友人が住む地域の違いも目のあたりにして、社会にはびこる格差について考えるようになったとき、私は30歳を過ぎていました。

世田谷区女性問題懇話会の委員となったことからジェンダー研究の先生方と出会い、アマルティア・センのケイパビリティ・アプローチに取り組みました。そのとき米国での経験から考えたのは、自由を拡大する手段としての富の蓄積でした。この問題関心を持ちつつ、高等教育を専門とする開発コンサルタントとして約20年、後半10年は独立して日本の大学や大手コンサル会社と組んで仕事をしてきました。現在はJICA 人間開発部で国際協力専門員として高等教育・技術教育案件を担当しています。

学歴：1975年 理学士（東京大学理学部生物化学科）

1997年 経済学修士（法政大学大学院経済学研究科）

2010年 博士（学術）（東京大学大学院総合文化研究科）

主要職歴

1975年 国際電信電話（株）（～1980年）

1984年 Franklin Parent Nursery School, Berkeley, CA, U.S.A.（～1986年）

1992年 文部省科学研究費研究補佐員（東京大学大学院法学政治学研究科）

1995年 東京大学理学部国際交流室

1996年 アジア科学教育経済発展機構（Asia SEED）

2005年 有限会社ヒューマンリンク

2016年 独立行政法人国際協力機構国際協力専門員（高等教育）

主要論文

- 中野恭子, 梅宮直樹, 2017, 「開発途上国の工学系修士課程への研究室中心教育(LBE)導入の効果と課題」 『工学教育』 65-2: 75-80
- 中野恭子, 2016, 「工学高等人材が技術移転の社会的受容能力としての役割を果たすプロセス—韓国浦項製鐵所建設の移転側技術者への聞き取り調査から—」 『国際開発研究』 第25巻 1-2号: 193-207
- Nakano, K., 2015, “Engineering Education as Social Capacity Building for Technology Transfer and Innovation: Lessons from the Steel Plant of Korea and Japan,” *Proceedings of World Engineering Conference and Convention 2015*
- 中野恭子, 1998, 「開発途上国の女性のウェル・ビーイング-アマルティア・センの示唆」 『女性労働研究』 No.34: 47-52
- 中野恭子, 1994, 「国連世界の女性-概観と検討」 『女性と統計-ジェンダー統計論序説』 伊藤陽一編著, 梓出版社: 159-179
- 津村恭子, 伊井一夫, 木村一郎, 1975, 「ラット肝のグルタチオン還元酵素の精製とその性質-とくにその分子量について」 『生化学』 47